

2013年12月13日

十和田八甲田地区
パークボランティア連絡会
第93号 会報

事務局（発行者） 阿部幸子

青森市中佃 2-15-5

Tel・Fax 017-741-8068

E-mail pv.0514@ruby.plala.or.jp



◆◆◆ 平成25年PV活動反省会 ◆◆◆

今年度は春から異常気象に振り回され、PV活動にも影響が出ました。

今年度の活動を振り返る反省会も例年より一週間遅れましたが、今回は八甲田山系から離れた浅虫温泉「椿館」で開催しました。

老舗旅館らしく落ち着いた雰囲気、棟方志功の絵画がロビーから廊下に数多く展示され、心豊かなひとときを過ごせました。

反省会は環境省高橋首席自然保護官と五十嵐自然保護官補佐の二名に出席頂き、PVからは27名の方々が参加しました。

研修会では会員の田村正美氏が「消えた奥羽一周記の謎」と題し、大町桂月が十和田湖と奥入瀬溪流を訪れた足跡について講演されました。人生五十年の時代に53歳で「桂月全集」を発刊し、東北・北海道を周遊、その土地の人々と交遊を図り、こよなく酒を愛しながら旅をした様子を、スライドを交え発表して下さり、楽しい興味ある史実として大変勉強になりました。



反省会終了後懇親会が予定通り午後6時から会員20名が出席し、工藤三男さんの挨拶、津川裕一さんの乾杯の音頭で始まりました。皆さんから差し入れの日本酒やワイン等で盛り上がり、お料理も豪華で全員満足だったようです。

二次会は猪狩さん達の部屋にお邪魔をし、みんなでワイワイ…。

翌朝は天気予報通り雨に変わってしまい残念ながらオプシオンは中止となりましたが、このままの別れが惜しく津川さん達の部屋に集合し、PV活動の活性化などについて話し合いました。

主な内容としては、

★十和田湖に新設されるビジターセンター内にPVに当てられる部屋はあるのか

★PVが使用できる部屋がある場合、どのような展示物が必要なのか

★来年4月下旬オープン予定だがなるべく早く説明していただきたい

など、新しいビジターセンターへの対応が中心となるものでした。

来年のPV活動に対して意気込みが感じられる話し合いです。（阿部記）



「葛野鳥の森歩道整備に参加して」

館 章二朗

11月7日(木) 小雨の中、葛温泉の駐車場へ総勢13名集合しました。前回の整備に参加した方々が大半なので、作業の打ち合わせも慣れた様子で終わり、二手に分かれて作業を開始しました。

木々の彩りは早や終わり、落ち葉が積った歩道を黙々と進み、排水溝を点検して行きました。排水溝の内部は流入した土で塞がっている箇所がありました。おまけに、木の根が栄養分を求めて入り込んでいるのです。排水溝の蓋を持ち上げて土や根を除去しました。排水溝は何年前に敷設されたのか分かりませんが、蓋の部分が腐り始めています。釘が全く効いていないので、部分的にしか蓋を外す事が出来ない箇所もありました。更新の必要性を感じました。

雨は最後まで止みませんでした。皆さんはきつちり仕事を終えました。皆お疲れ様でした。

昨年からはまったこの活動、館さんの活動報告にもあるように歩道の状態はまだ十分とはいえません。今後も整備作業を継続していきますので皆さんのご協力をお願いいたします。(人数のいる作業です)



◆◆平成25年井戸岳植生復元作業報告◆◆

本会が中心になって平成17年より実施している井戸岳山腹の植生復元事業(実施主体：八甲田大岳・井戸岳植生復元協議会)は9年目を迎え、今年は6月から10月まで延5回に亘り行った。

毎年継続して行っている、「凍上した土留め杭の打ち直し」、「植生保護横板の補強」、「マット飛散防止の細紐の張替え」、「古い番線の回収」、「調査区及び実験区の植生調査」などの作業を実施した。新規の作業として播種による効果を試す実験区の設置を行った。今年も例年のごとく強風と濃霧に悩まされ晴天に恵まれたのは9月4日の1回のみであった。

植生の回復状況は全体的には変化がなく、以前に見られた荒廃地の拡大は落ち着きを見せ、緩やかではあるが良い方向へ向かっているものと思われる。

かつては井戸岳稜線部にしか見られなかったイワブクロが山腹に生育地を広げているのは特質され、新設実験区については、播種による早期植生回復の可能性を探るために、風衝地で無植生のC1隣接地に選定し、「方形横板+マット+播種」、「マット+播種」、「無施工の対照区」の3地点とした。播種した種子は環境省が事前に現地で採取した、ウメバチソウ、ガンコウラン、コケモモ、ハイマツ、マイヅルソウ、マルバシモツケ、ミネズオウ、ミヤマハンノキ等である(これらの行為は許可を得ておこなっており、詳しく10月10日のAR日記を参照)。既に種子が飛散して採取できなかったスゲ類や草本類の植物が少なくなく、



写真上：東島氏撮影
写真下：畑中 AR 撮影



また、ハイマツ、ミヤマハンノキ等は未成熟の可能性があり、今後も種子の採取、播種を継続する必要があります。1m四方の大きさの調査区や実験区は延20点に及び、特にマット布設の箇所は腐蝕や飛散によりその位置が特定できないケースが起きたため、区画確認が容易となるように、耐久性のある鉄ピンに今回替えたが、さらに表示板などの設置が望まれる。

ハード面については、第1回、第2回及び第4回の作業において、平成17年以降に設置された植生マット、土留め杭・横板、植生保護横板などの補強を行ったが、強風雨により破損または飛散した箇所があり早めに改修の必要がある。

今年は薬師沢雪渓の雪解けが遅く、第1回と第2回の帰路時にロープ柵の手直しを行った。また例年のように往路及び帰路時に毛無岱木道の滑り止めの横木設置を行った。(東島 記)

播種(はしゅ)：植物の種子を播く(蒔く)こと。種まき。種をばらまいたように、無造作・無秩序にまく状態を言う。

◆◆事務局から◆◆

PV 会報第 93 号の編集・作成も無事終了し、会員の皆さんへお届け出来る事にひと安心しています。

今年も冬の訪れが遅く、我が家の冬仕度もタイヤ交換をただけで保留状態となっております。

本音はただ怠けているだけです(笑)

PV の活動も暫く冬休みとなりますが、3 月予定の研修会では皆さんに喜んでいただけるように、早めに準備に入りたいと思っています。

(こちらは怠けませんので!)



□環境省から□

来年春には十和田湖に新しいビジターセンターがオープン致します。そこで、PV の皆様には是非ビジターセンターの展示(写真等)、施設案内の補助等様々に携わっていただきたく思っております。具体的なことは3月上旬の研修会にお伝え致しますが、取り急ぎ十和田湖・奥入瀬の写真を提供していただける方を募集しております。提供してもいいという方がいらっしゃいましたら、2 月末までに十和田自然保護官事務所までご連絡お願い致します。

南八甲田の

「オオタカネイバラ」

7 月初旬、南八甲田山の一部の地域で花を咲かせるオオタカネイバラを御存知でしょうか。登山道脇の茂みにひっそりと咲くこの花、直接目にした事のある人は意外と少ないかと思えます。

今回 会員の富士さんから

南八甲田のオオタカネイバラの植生状況と、これからの保護の在り方などについて寄稿していただきました。

富士さんは当 PV の活動

に協力する傍ら、三八上北森林管理署・森林保護員(グリーン・サポート・スタッフ)として、南八甲田地域を定期的に巡視し、入山者へのマナー啓発指導、ゴミ等の不法投棄防止、標識や歩道の簡易な補修などを行い貴重な森林生態系の保全管理に取り組んでいます。

「地獄峠(南八甲田) オオタカネイバラの群生」

今季 7 月、地獄峠にオオタカネイバラが 4 輪咲きました。

3 年ぶりに咲き、お目にかかったオオタカネイバラです。



深紅に咲いた大柄な花卉は周囲の濃い緑によく映え、目立ち、一寸興奮したところです。

南八甲田のオオタカネイバラは地獄峠にて毎年観察してきたのですが、何せ知識の不足な私には花の咲かない葉だけのオオタカネイバラは目につきにくいものでした。目が慣れてくると道傍に点々と見えてきました。その点々のオオタカネイバラを辿っていくと、次々と近接生育・群生しているのが見えてきたのです。

強風、雪などにより矮化(わいか)したアオモリトドマツ、枯損木の下、オガラバナ、ハウチワカエデ、ミネカエデ、ハクサンシャクナゲ、イワツツジ、ササ等々の下からと、湿地

からの叢あたりなどから、陽の光を求めて懸命に頭を出そうとしている健気なオオタカネイバラ、その数控えめに見て 50 ～ 60 本位。また、道の反対側東の面に更に 20 ～ 30 本位。この中には赤い実をつけているものもありました。10 輪は咲いたものとうかがわれます。精査したならばオオタカネイバラの本数は更に多くなるでしょう。



南八甲田に於けるオオタカネイバラは、昭和 54 年 6 月発行「八甲田所産・高山植物」三浦文吉著に、地獄峠・黄瀬范に生育していると記述されており、これを再確認したことになると思います。それにしても群生になっているとは驚きです。その他の南八甲田植物記録を探しています。オオタカネイバラの記述はなかなか出てこない。不思議なのは平成 2 ～ 4 年度青森県調査

「南八甲田山地総合学術調査報告書」にも出ておりませんのでした。



地獄峠

(余記、本報告書は旧県道を軍用道路として記述：救農対策事業施設道路なのですが・・・)

南八甲田縦走線「地獄峠、標高凡そ1260米」、名前が穏やかでないのですが、桂月から、山の神と称された太田吉之助、並ぶ山男小笠原松次郎の古い記録、昭和14年著「南八甲田に遊ぶの記小河青森県知事に倂して」に「俗称地獄峠」として出てきます。しかし、地獄峠とは穏やかでない、小河知事は「千松峠」ではどうかと言いましたが、今日までそのまま通称となっています。

アオモリトドマツの枯折損の具合、樹木の矮化などの状況から見ると、今も山背、強風雪の直にあたる場所であり、旧県道施設状況は当時(昭和9年〜11年)幅六間の車回し・退避場としての地獄峠。小河県知事指摘の赤子頭状の砂利?の敷設状況、当時冷害続きの悪気象とかの難苦を思えばさもありなんと思ふところですが。ここから晴れた日には岩手山も遠望できます。

地獄峠のオオタカネイバラ、陽光あたること少なく、このまま陰日向

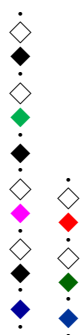
にして花少なく、周辺の植生に埋もれ終わるのは残念かな、(周辺の植生、もちろん大切ですが・・・)陽あたりの一斉に花咲く群生地を見てみたいところです。

一部の者の知るところの観賞対象の場となってしまうのが気がかり、今の花が咲いたあとの赤い実が摘みとりされているのも見られます。せめてササからの刈り出しを行い、人それぞれのマインドの醸成、その発意による監視・観察の共有でありたいと願うところです。

因みに黄瀬蒔に赤い実をつけた複数個所のオオタカネイバラの生育地も確認できました。



環境省、東北森林管理局とも連絡・連携をとり、群落地指定への取り組みをお願いできないものかと思うところです。むりかなあ、皆で共有し、見守ってゆくことが大切かと思うのですが。



「追記」

駒ヶ峰東斜面にチシマフウロの群生地があります。

開花期7月斜面一面蒼色のチシマフウロとミヤマキンポウゲとの群生、面積にして1ヘクタール位でしょうか。精査すると更に



色々な花があるかもしれません。一見の余地あります。平成14年春、雪解けにより、表層面が滑り崩落、その跡地に2〜3年かかって生えてきたものと見ております。

旧県道駒ヶ峰分岐から、ササ被り道を30分登り、開けて右斜面を見ると目に入ります。前述三浦文吉氏は高山帯陽地、櫛ヶ岳・横岳にありと記述があります。その他、昭和50年代の文献にも駒ヶ峰に、と記述があります。さすが今の東斜面ではないかと思ひます。また、当時の地況から推して群生していたとは思われな

いのですが・・・。

富士 昌武



◆オオタカネイバラ (大高嶺薔薇)

☆バラ科バラ属の落葉低木。別名、オオタカネイバラ。

☆樹高は1〜1.5m、枝はよく分枝する。枝には帯白色の刺針が多生する。花期は6〜7月。小枝の先端に1・2個の花をつける。

☆小花柄は長さ約3cmあり、細い刺が疎生する。花の径は4〜5cmで、紅紫色の5弁花になる。

☆果実は長さ2cmの倒卵状狭紡錘形になり、黄赤色に熟す。(ウイキペディアより)

☆北海道、本州中部以北に分布する。青森県内では南八甲田の一部地域や黒石市黒森山周辺他で生育し、数は少ない。

◆青森県植物図譜・青森の自然環境を考える会(図譜：岩淵功、解説：細井 幸兵衛)

青字ネット
検索で生
態が紹介され
ています。



2003年7月
撮影：高田

